

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102277		
法人名	特定非営利活動法人 さわか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム千寿庵万葉		
所在地	岐阜市加納村松町1丁目1番地40		
自己評価作成日	平成22年6月22日	評価結果市町村受理日	平成22年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102277&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人ひとりの個性を尊重して、望んでいることが実現できる取り組みをしています。また歩行する機会を多く設けて下肢筋力の低下を防ぎ、最期まで自立した生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に建つ民家を改修したホームに、5人の利用者が地域の住民として生活している。スタッフ心得に「①個々の生活習慣のや趣味、価値観を尊重する。②生活の自立度を高める。③生活行為を自分で選択できる自己決定権を尊重する。④生きることに喜びと意義を見出せるように援助する。⑤社会との接触を持ちながら生活できるようにする。」を挙げ、自由と個性を大切にした自立支援の下、一人ひとりのペースに合わせた個別の支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のミーティング時に再確認しています。触れ合い、学びあいを職員の基本姿勢として、反省材料にしています。	「出会い・触れ合い・学びあい」を理念とし、利用者の尊厳を認め、個性のある自立した者として理解し、質の高い生活が送れるよう援助を行うことを運営方針にあげている。職員の精神面も含め相談を受け、利用者本人の決定を大切に実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美容院、床屋、スーパーなど近隣の店を利用しています。防災訓練、盆踊りなど地域の行事に参加しています。	ホーム設立者は地域住民で、地域とのつながりは、現在においても継続しており、自治会の会長、副会長等の協力も得ている。地域住民とは日々の散歩を通し顔馴染みである。気候・利用者の体調をみて地域の防災訓練や盆踊りにも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加してもらい地域に発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングで出された意見を報告して、サービスの向上に生かすようにしています。	平日の午前中に家族、市・包括支援センター職員、ホーム管理者、職員時には利用者が参加し開催している。会議では会議開催意義の確認を行い、ホーム内利用者の状況、活動や活動予定等の報告や意見交換が行われている。	入所定員が5名のホームであり、家族との連絡は取れている。年間6回の運営推進会議に色々な家族が参加できるように、開催日時を調整する等の工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や日頃からの連絡を密にして協力が得れるようにしています。	運営方針の「生活行為を自分で選択できる自己決定権を尊重する」支援の実践から、取り組みを伝え、利用者へ予測されるリスク管理についても相談する等、連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をすることはありません。ミーティング等での話し合いで意識向上を図っています。	昼間、出入り口の施錠はせず、来客があれば玄関を使用するが、通常は台所からの出入り口を使用している。現在比較的自立度が高い利用者が多く、希望の表出も可能であり、自己決定を尊重し、拘束は行っていない。	将来のリスクを予測したケアの提供のためにも、1人外出者の信号機の判断、横断歩道を渡る時間、歩ける距離等の把握も実施されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞などの記事や資料を参考に話し合い防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料、パンフレットで話し合い確認しています。現在利用されている方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談のなかでリスクや本人の希望を聞きだし、不安がないように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議で家族の意見や要望を聞き、電話やファックスを利用して対応しています。	運営推進会議に参加する家族は限られているが、ホームへの訪問は、最低でも月に1回はあることから、訪問時に利用者の生活状況報告と意見や相談等ないか尋ねている。課題はミーティングで検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の仕事やミーティングで意見交換を行い、話し合う機会を設けています。	毎月1回のミーティングは話しやすい雰囲気で開催している。職員間での精神的な面での課題もあり、話し合いを充分取るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望を聞く機会を設けて個々に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのために研修を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に加入しているので、他事業所と情報交換したり、分からない点を教えてもらったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談をしっかりと本人の希望を聞きだし対応しています。入居後もサービス担当者会議を開き話し合います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族の協力を求めて、ホームにきてもらうよう進めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	権利擁護事業や福祉用具貸与など必要に応じて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしながらも擬似家族として接するように心懸けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に状況報告を手紙で行い、ホームにきてもらうように進めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事由に訪問してもらい不自由がないように支援しています。	ホームでの生活年数が長くなり、ホーム周辺の美容室や喫茶店、職員との関係に安心できる居場所が作られてきている。家族と共に、馴染みの美容室に出かける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の揉め事はありますがスタッフが中に入り、良好な関係が築けるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の訴えにゆっくりと話を聞き、個々の希望が実現するように努めています。	意思表示や要望を訴えることが可能な利用者が多く、本人の希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人からの話を時間をかけて聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、身体状況等、業務日誌や申し送りノートに記載して情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、職員を交え、家族の意見を参考にしながら話し合いをして作成しています。	介護支援専門員は週1回ホームを訪問している。管理者・職員は家族と連絡を取り合って意向を把握し、自分で希望を出せる利用者も多く、それらの情報を参考に介護計画を立てている。3ヶ月毎に計画の評価を行い、ミーティングで報告し、次の計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を参考にして改善点を話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に合わせて身体能力や家族の協力など検討して判断しています。		

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や地域の行事活動など活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得てかかりつけ医に往診や訪問看護を受けています。本人の希望で主治医を嘱託医以外の医療機関にしている方もいます。	ホームの協力医をかかりつけ医としている利用者が多く、協力医の往診は月2回、訪問看護師の訪問も月2回あり、毎週医師か看護師の訪問があるようにしている。眼科・整形外科・歯科等の受診支援もホーム側で支援している。希望による入居前からのかかりつけ医師への受診には家族が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間訪問看護を受けられる体制を取り定期的に月2回の往診も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	嘱託医を通じて迅速に対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	嘱託医と家族と本人と三者で方針を決め、方針が反映されるように取り組んでいます。ホームで出来ることを早期に家族に伝えます。	契約時にホームで可能な対応やケアを説明しているが、重度化した場合は、家族と医師がよく話し合い、方針を決定している。管理者は、家族の方針を確認し、ミーティングにおいて、職員間で方針の共有を図っている。医師と連絡を密に行い、方針に沿った対応をし、ホームでの看取りも経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師からの助言をミーティングで話し合い対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加する等地域の人とも交流しています。災害時の協力を運営推進会議で再三お願いしています。他のホームに見学を兼ねて協力体制について話し合う機会を設けています。	地域への協力依頼は機会を見つけては努力しており、最近ではより顔見知りの人が増え、ホームの場所、緊急時の応援依頼等広報している。運営推進会議において他県でのホーム火災を取り上げ話題とし、スプリンクラー等の消防設備は、来年3月までに設置を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する声かけや態度に十分配慮して対応の仕方についての話し合いをしています。	これまでの生活スタイルのこだわりや個性の強さがあり、個々人に合った言葉かけや誘導を職員間で話し合い実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心して職員と会話ができるような関係を築き、本人が自由に表現ができる環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った一日を過ごしてもらえるような支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に選んでもらった服を着てもらい、また化粧を手伝い、気分よく過ごしてもらえるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのもをメニューに付け加えたり、味見をしてもらったりしています。食事の後片付けを手伝ってもらいます。	朝食時の主食・嗜好品の選択、味付け等利用者の好みにあわせて提供を行っている。嚥下困難な人も見られず、聞き取りした好みの食材の献立を工夫している。その日の体調にもよるが、食事の準備や後片付けを職員と共に行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に残し毎日チェックしています。摂取量に注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ることはしてもらい、確認をします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行う支援をしています。	排泄は、意思表示やトイレでの排泄が可能な利用者が多い。利用者定数が少ないことから、個別の排泄リズムの把握ができており、個別の排泄パターンに合った下着の着用を行っている。利用者の夜間の体調を把握し、夜間のみポータブルトイレを使用する等支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や服薬確認など個々に合わせて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂の順番や温度など希望に沿った支援をしています。	男女の利用者が入居しており、男性、女性で入浴日を変えている。浴槽に入ることが楽しい利用者が多いことから、湯加減、入る順番、ゆっくり入浴できる時間配分等に配慮している。浴室内は全周囲に手すりが取り付けられたり、介助者が居ても狭くないよう作られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動で散歩など運動をして、よく眠れるように気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量を必ず確認して、体調に変化がないか見守ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、片付けや掃除を手伝ってもらいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人で外出する方もみえるので、家族と十分話し合い、不測の事態に備え協力を得られるようにしています。本人の体調など職員が判断して、場合によっては外出を控えてもらう時もあります。	暑い時期は困難であるが、日常の散歩は車椅子の利用者もホーム周辺で行っている。近くの喫茶店にコーヒーを飲みに出かけることもある、体調を見ながら月に1回程の外出もする。	運営推進会議でも取り上げられているが、1人でバスを利用したり、喫茶店への外出が日常にある利用者に対し、歩行能力、判断力等のチェックを行い、職員間で情報の共有、付き合いや見守りの必要を検討したサービスの提供を期待したい。

岐阜県 グループホーム千寿庵万葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理されている方もみえます。自分で買物が出来る支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やファックスを自由に使ってもらいます。手紙は本人に手渡し、後で確認を取ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、清潔に心懸けています。	民家改修型であり、どこにいても人の気配が感じられ、リビングとダイニングは隣りあわせになっている。利用者は自室とリビング・ダイニングを自由に行き来し、好みの場所に座り、くつろいでいる。玄関に一人がけの椅子があり、少し休んだり、履物の脱ぎ履きがしやすく配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋にいたい時と居間にいる時と本人の希望を優先しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や食器を持ってきてもらい、本人の希望に沿うように対応しています。	ベッドはホームで用意してある。タンス・椅子・テレビ等家具が持ち込まれ、個性のある部屋となっている。居室のクーラーの温度管理は職員が配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備面で手摺や床材など職員が相談して対応しています。		